



FlexConfig の管理

FlexConfig ポリシーを使用すると、Security Manager ではサポートされていないデバイス コマンドを設定できます。FlexConfig を使用することで、Security Manager によるデバイス設定の制御を拡張したり、製品をアップグレードする前に新しいデバイス機能を利用したりできます。

FlexConfig ポリシーは、FlexConfig オブジェクトで構成されます。これらのオブジェクトは、基本的には、スクリプト言語コマンド、デバイスコマンド、および変数を格納できるサブルーチンです。オブジェクトは、Security Manager 設定をデバイスに適用する前に処理されるように設定するか、または設定後に処理されるように設定できます。Security Manager では、オブジェクトが指定した順に処理されるため、別のオブジェクトの処理に依存するオブジェクトを作成できます。FlexConfig ポリシーオブジェクトの内容は、単一の簡単なコマンド文字列から、スクリプトや変数が組み込まれた複雑な CLI コマンド構造にいたるまでさまざまです。



- (注) Cisco Security Manager は、FlexConfig の作成または変更後に FlexConfig を 1 回だけ展開するように設定したり、展開ごとに FlexConfig を展開するように設定したりできます。デフォルトでは、Cisco Security Manager は FlexConfig を 1 回展開します。展開ごとに FlexConfig を展開する必要がある場合は、[ツール (Tools)] > [Security Manager 管理 (Security Manager Administration)] > [展開 (Deployment)] ページで [新規または変更された Flexconfig のみを展開する (Deploy only new or modified Flexconfigs)] 設定をディセーブルにします。この設定を変更した後は、展開後に 1 回限りの FlexConfig を削除して管理する必要があります。詳細については、[\[Deployment\] ページ](#)を参照してください。

FlexConfig ポリシーオブジェクトを理解して使用するには、ポリシーとオブジェクトについて理解することが重要です。Security Manager によるポリシーの定義および使用方法の詳細については、[ポリシーの管理](#)を参照してください。Security Manager によるオブジェクトの定義および使用方法の詳細については、[ポリシー オブジェクトの管理](#)を参照してください。



- (注) [ツール (Tools)] > [Security Manager管理 (Security Manager Administration)] > [展開 (Deployment)] ページの [新規または変更済みFlexConfigのみを展開する (Deploy only new or modified FlexConfigs)] 設定を有効にした場合、変更のあるアクティビティを開いているときに、FlexConfig を展開しようとする、Cisco Security Manager は、(他のアクティビティの変更ではなく) 開いているアクティビティのみに固有の FlexConfig の変更を考慮します。一方、すべてのアクティビティが送信済みで、開いているアクティビティがない場合、Security Manager は、変更とともに送信された、最後に送信されたアクティビティに固有の FlexConfig の変更を考慮します。そのため、展開中にアクティビティを反映させるために FlexConfig の変更が必要な場合は、変更が単一のアクティビティで実行され、送信され、展開されていることを確認してください。

ここでは、FlexConfig ポリシーとポリシーオブジェクトおよびそれらの使用方法について説明します。

- [FlexConfig ポリシーとポリシー オブジェクトについて \(2 ページ\)](#)
- [FlexConfig ポリシーとポリシー オブジェクトの設定 \(31 ページ\)](#)
- [\[FlexConfig Policy\] ページ \(45 ページ\)](#)
- [FlexConfig のトラブルシューティング \(48 ページ\)](#)

FlexConfig ポリシーとポリシーオブジェクトについて

FlexConfig ポリシー オブジェクトは、FlexConfig ポリシーで使用されます。これらのオブジェクトを使用すると、Security Manager ではサポートされないデバイス機能を設定したり、デバイス設定を微調整したりできます。これらのポリシーオブジェクトにはデバイスコンフィギュレーションコマンドと変数が含まれます。また、処理を制御するスクリプト言語命令が含まれることもあります。FlexConfig オブジェクトは、基本的には Security Manager によって生成されたデバイス設定に内容を追加するプログラミングルーチンです。

FlexConfig ポリシー オブジェクトは、最初から作成するか、または Security Manager に付属のオブジェクトを複製して作成できます。

FlexConfig ポリシーは、FlexConfig ポリシー オブジェクトの単なる順序リストです。オブジェクトは指定した順序で処理されます。

FlexConfig ポリシー オブジェクト、さらに FlexConfig ポリシーの概要については、次の項を参照してください。ポリシー オブジェクト全般の詳細については、[ポリシー オブジェクトの管理](#)を参照してください。

- [FlexConfig ポリシー オブジェクトにおける CLI コマンドの使用 \(3 ページ\)](#)
- [スクリプト言語命令の使用 \(3 ページ\)](#)
- [FlexConfig オブジェクトの変数について \(6 ページ\)](#)
- [定義済みの FlexConfig ポリシー オブジェクト \(24 ページ\)](#)

FlexConfig ポリシー オブジェクトにおける CLI コマンドの使用

FlexConfig Editor に入力するコンフィギュレーション コマンドは、PIX ファイアウォールや Cisco IOS ルータなどのデバイスの設定に使用される実際の CLI コマンドです。Security Manager でサポートされていない CLI コマンドを含めることができます。コマンドを理解し、デバイス タイプに適した構文を使用してコマンドを実装する必要があります。詳細については、特定のオペレーティング システムのコマンド リファレンスを参照してください。

FlexConfig ポリシー オブジェクトを作成するとき、通常の Security Manager ポリシーから生成された設定の先頭と末尾のどちらに、コマンドや命令を追加するかを指定します。

- プリペンドされるオブジェクト：設定の最初に処理される FlexConfig オブジェクト。Security Manager ポリシーでオブジェクトに含まれているのと同じコマンドが設定されている場合、プリペンドされるコマンドは設定ファイルの展開時に置き換えられます。
- 付加されるオブジェクト：設定の最後（設定ファイル内の他のすべてのコマンドから **write mem** コマンドまでの間）に処理される FlexConfig オブジェクト。

アペンドされるコマンドがデバイスにすでに設定されている場合、それらのコマンドをもう一度追加しようとすると、エラーが生成されます。このことを解決するための回避策が2つあります。

- アペンドされるコマンドとして、問題のある設定を削除するコマンドを入力します。たとえば、コマンドが **xyz** の場合は、次の2行を入力します。

```
no xyz
xyz
```

- デバイスが「警告」するアクションを制御する設定を変更します。これは、[ツール (Tools)] > [セキュリティ管理 (Security Administration)] > [展開 (Deployment)] で設定します。

この設定変更は、アペンドされるコマンドとして指定されたコマンドだけでなく、展開されるすべてのコマンドについて、デバイスの動作に反映されます。



- (注) デバイスに展開する場合は、最初の展開後、ほとんどのアペンドされるコマンドを削除する必要があります。このことは、バインドされていないオブジェクトグループがコマンドの生成中に [Ending Command] セクションで置き換えられ、設定がデバイスに展開されるたびに再送信されるオブジェクトグループに特に当てはまります。ファイアウォール デバイスによってオブジェクトグループがすでに存在することが示されるため、エラーが表示されます。ファイルまたは AUS に展開する場合は、アペンドされるコマンドを削除しません。

スクリプト言語命令の使用

FlexConfig ポリシー オブジェクトでスクリプト言語命令を使用して、オブジェクト内のコマンドの処理方法を制御できます。スクリプト言語命令は、Velocity テンプレート エンジンでサ

ポートされているコマンドのサブセットです。Velocity テンプレートエンジンは、ループ、if/else ステートメント、および変数をサポートする Java ベースのスクリプト言語です。

Security Manager では、**include** コマンドと **parse** コマンドを除くすべての Velocity テンプレートエンジンのコマンドがサポートされています。サポートされている他のコマンドの詳細については、Velocity テンプレートエンジンのマニュアルを参照してください。

次の各項では、最も一般的に使用される機能の例を示します。

- [スクリプト言語の例 1 : ループ \(4 ページ\)](#)
- [スクリプト言語の例 2 : 2 次元配列でのループ \(4 ページ\)](#)
- [例 3 : If/Else ステートメントを使用したループ \(5 ページ\)](#)

スクリプト言語の例 1 : ループ

Plain Old Telephone Service (POTS; 一般電話サービス) ダイアル ピアを使用すると、電話番号を音声ポートに関連付けることによって、テレフォニー デバイスで着信コールを受信できます。次の例では、POTS ダイアル ピアのセットの発信者番号をイネーブルにします。

オブジェクト本体

```
#foreach ($peer_id in ["2", "3", "4"])
    dial-peer voice $peer_id pots
    caller-id
#end
```

CLI 出力

```
dial-peer voice 2 pots
caller-id
dial-peer voice 3 pots
caller-id
dial-peer voice 4 pots
caller-id
```

スクリプト言語の例 2 : 2 次元配列でのループ

この例では、着信コールをルータで受信できるように電話番号のセットが音声ポートに関連付けられています。

オブジェクト本体

```
#foreach ($phone in [ [ "2000", "15105552000", "1/0/0" ], [ "2100",
"15105552100", "1/0/1" ], [ "2200", "15105552200", "1/0/2" ] ] )
    dial-peer voice $phone.get(0) pots
    destination-pattern $phone.get(1)
    port $phone.get(2)
#end
```

CLI 出力

```
dial-peer voice 2000 pots
destination-pattern 15105552000
port 1/0/0
dial-peer voice 2100 pots
destination-pattern 15105552100
port 1/0/1
dial-peer voice 2200 pots
destination-pattern 15105552200
port 1/0/2
```

例 3 : If/Else ステートメントを使用したループ

この例では、着信コールをルータで受信できるように電話番号のセットが音声ポートに関連付けられています。さらに、電話番号の別のセットを IP アドレスに関連付けて、ルータからの Voice over IP 発信コールをイネーブルにしています。

オブジェクト本体

```
#foreach ( $phone in [ [ "2000", "15105552000", "1/0/0", "" ],
[ "2100", "15105552100", "1/0/1", "" ],
[ "2200", "15105552200", "", "ipv4:150.50.55.55" ]
[ "2300", "15105552300", "", "ipv4:150.50.55.55" ] ] )
    dial-peer voice $phone.get(0) pots
        destination-pattern $phone.get(1)
    #if ( $phone.get(2) == "" )
        session target $phone.get(3)
    #else
        port $phone.get(2)
    #end
#end
```

CLI 出力

```
dial-peer voice 2000 pots
    destination-pattern 15105552000
    port 1/0/0

dial-peer voice 2100 pots
    destination-pattern 15105552100
    port 1/0/1

dial-peer voice 2200 pots
    destination-pattern 15105552000
    session target ipv4:150.50.55.55

dial-peer voice 2300 pots
    destination-pattern 15105552300
    session target ipv4:150.50.55.55
```

FlexConfig オブジェクトの変数について

FlexConfig ポリシー オブジェクトの変数は、\$ 文字で始まります。たとえば、次の行では、\$inside が変数です。

```
interface $inside
```

FlexConfig ポリシー オブジェクトで使用できる変数には 3 つのタイプがあります。

- **ポリシーオブジェクト変数**：特定のプロパティを参照する静的変数。たとえば、テキストオブジェクトは、ポリシーオブジェクト変数のタイプの 1 つです。これらの変数は名前と値のペアであり、値には単一の文字列、文字列のリスト、または文字列のテーブルを指定できます。これらの変数には、任意のポリシーオブジェクトによる参照または操作の対象となる、任意のタイプのテキスト データを入力できます。

ポリシー オブジェクト変数を FlexConfig ポリシー オブジェクトに追加するには、次の 3 通りの方法があります。まず、カーソルを目的の位置に移動し、次の作業を実行します。

- 右クリックし、[テキストオブジェクトの作成 (Create Text Object)] を選択します。このコマンドによってダイアログボックスが開きます。このダイアログボックスでは、簡単な単一値のテキストオブジェクトを作成して値を割り当てることができます。[OK] をクリックすると、変数がオブジェクトに追加され、[Policy Object Manager] ウィンドウの定義済みテキストオブジェクトのリストに追加されます。この変数は、他のオブジェクトで使用したり、定義を編集したりできます。簡単なテキスト変数の作成例については、[FlexConfig ポリシー オブジェクトの変数の例 \(7 ページ\)](#) を参照してください。
- 右クリックし、[ポリシーオブジェクトの挿入 (Insert Policy Object)] サブメニューからポリシーオブジェクトタイプを選択します。セレクトダイアログボックスが開き、挿入する変数が格納される特定のポリシー オブジェクトを選択できます。ポリシー オブジェクトを選択すると、[Property Selector] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスで、使用するオブジェクトの特定のプロパティを選択したり、プロパティに関連付けられている変数の名前を任意で変更したりします。

この方法を使用すると、使用する値がプロパティに含まれていることがわかっている場合に、既存のポリシーオブジェクトからそのプロパティを追加できます。たとえば、RADIUS プロトコルを指定する変数を RADIUS という名前の AAA サーバーグループ ポリシー オブジェクトから挿入する場合は、右クリックして [ポリシーオブジェクトの挿入 (Insert Policy Object)] > [AAAサーバーグループ (AAA Server Group)] を選択し、[AAA Server Group Selector] ダイアログボックスで [RADIUS] を選択して [OK] をクリックします。次に、[AAA Server Group Property Selector] ダイアログボックスの [オブジェクトのプロパティ (Object Property)] フィールドで [プロトコル (Protocol)] を選択し、[OK] をクリックします。\$protocol 変数がカーソル位置に挿入され、選択したオブジェクトに定義されているプロパティの値が変数リストに追加されます。

- 変数名を入力します。変数を入力しても、[Add FlexConfig]/[Edit FlexConfig] ダイアログボックスで [OK] をクリックするまでは、変数に値を割り当てることができません。変数が未定義であることが通知され、値を定義するように促されます。[FlexConfig Undefined Variable] ダイアログボックスで、目的の値を含むポリシー オブジェクトのオブジェクト

タイプを選択できます。これにより、特定のポリシーオブジェクトと変数を選択するように要求されます。この操作は、実質的には前述のポリシーオブジェクト変数を挿入する処理と同じです。いずれの方法を使用するかは任意であり、最終的な結果は同じになります。

- システム変数：展開中、設定が生成されるときに値を参照する動的変数。値は、ターゲット デバイスまたはターゲット デバイ스에設定されているポリシーから取得されます。FlexConfig ポリシーオブジェクトでオプションにする（つまり、変数をデバイスに展開するために変数に値を割り当てる必要がない）ようにシステム変数を宣言できます。

システム変数を FlexConfig ポリシーオブジェクトに挿入するには、カーソルを目的の位置に移動し、右クリックして [システム変数の挿入 (Insert System Variable)] サブメニューから変数を選択します。使用可能なシステム変数の説明については、[FlexConfig システム変数 \(8 ページ\)](#) を参照してください。

- ローカル変数：ループおよび割り当てによる派生物 (**for each** および **set** ステートメント) 内でローカルな変数。ローカル変数では、Velocity テンプレート エンジンから直接値を取得します。ローカル変数の値を指定する必要はありません。

ローカル変数を挿入するには、単純にそれを入力します。[FlexConfigの追加 (Add FlexConfig)]/[FlexConfigの編集 (Edit FlexConfig)] ダイアログボックスで [OK] をクリックすると、未定義の変数を定義するかどうか確認されます。[No] をクリックできます。[Yes] をクリックして他の変数を定義する場合は、ローカル変数のオブジェクトタイプを [Undefined] のままにできます。

FlexConfig ポリシー オブジェクトの変数の例

CLI コマンドや変数を使用すると、FlexConfig ポリシー オブジェクトを作成して Cisco ルータ上の内部インターフェイスやクリプト マップに名前を付けることができます。

```
interface $inside
crypto map $mapname
```

次の例は、これらのコマンドを追加し、\$inside の値を **serial0**、\$mapname の値を **my_crypto** として設定する FlexConfig ポリシーオブジェクトの作成方法を示しています。

FlexConfig ポリシー オブジェクトをデバイスに追加し、設定が生成されると、次の出力が作成されます。

```
interface serial0
crypto map my_crypto
```

-
- ステップ 1** [管理 (Manage)] > [ポリシーオブジェクト (Policy Objects)] を選択して [Policy Object Manager] を開きませ (Policy Object Manager を参照)。
 - ステップ 2** コンテンツテーブルから [FlexConfigs] を選択します。右ペインのテーブルには、既存の FlexConfig オブジェクトが一覧表示されます。

- ステップ 3** テーブル内で右クリックし、[新規オブジェクト (New Object)] を選択します。[Add FlexConfig] ダイアログボックスが表示されます ([Add FlexConfig]/[Edit FlexConfig] ダイアログボックス (36 ページ) を参照)。
- ステップ 4** 名前を入力し、任意でオブジェクトの説明を入力します。
- ヒント グループ名を入力することもできます。グループを使用すると、多くの FlexConfig オブジェクトを作成する場合にオブジェクトを見つけやすくなります。グループ名を入力するか、またはドロップダウンリストから既存のグループを選択します。
- ステップ 5** コマンドがデバイス設定の末尾に追加されるように、タイプの [付加 (Appended)] を選択したままにします。
- ステップ 6** オブジェクトの内容を作成します。
- FlexConfig 編集ボックス (大きな白いボックス) 内をクリックし、**interface** に続けてスペースを入力します。
 - 右クリックし、[テキストオブジェクトの作成 (Create Text Object)] を選択します。
 - [テキストオブジェクトの作成 (Create Text Object)] ダイアログボックスで、名前として **inside**、値として **serial0** を入力します。[OK] をクリックして変数を追加します。
 - Enter を押して次の行に移動し、**crypto map** に続けてスペースを入力します。
 - 右クリックし、[テキストオブジェクトの作成 (Create Text Object)] を選択します。
 - [テキストオブジェクトの作成 (Create Text Object)] ダイアログボックスで、名前として **mapname**、値として **my_crypto** を入力します。[OK] をクリックして変数を追加します。
- ステップ 7** 編集ボックスの上にある [FlexConfig の検証 (Validate FlexConfig)] アイコンボタンをクリックして、オブジェクトの整合性と展開可能性を確認します。エラーが特定された場合は、修正します。
- ステップ 8** [OK] をクリックしてポリシーオブジェクトを保存します。これで、オブジェクトをデバイスのローカルまたは共有 FlexConfig ポリシーに追加できます。

FlexConfig システム変数

システム変数は、展開中、設定が生成されるときに値を参照します。Security Manager には、定義済みのシステム変数のセットが用意されており、これを使用して FlexConfig ポリシー オブジェクトを定義できます。値は、ターゲット デバイスに作成したポリシーから取得されます。これらの変数の値は、特に指定のないかぎり必須です。これらの変数の詳細については、次の表を参照してください。

- デバイス システム変数：表 1: デバイス システム変数 (すべてのデバイス タイプに適用) (9 ページ)。デバイスを検出または設定してこれらの変数の値を取得する方法の詳細については、[デバイス インベントリの管理](#)を参照してください。
- ファイアウォール システム変数：表 2: ファイアウォール システム変数 (11 ページ)。ファイアウォール ポリシーの詳細については、[ファイアウォール デバイスの管理](#)および [ファイアウォール サービスの概要](#)を参照してください。
- ルータ プラットフォーム システム変数：表 3: ルータ プラットフォーム システム変数 (16 ページ)。ルータ ポリシーの詳細については、[ルータの管理](#)を参照してください。

- VPN システム変数：表 4: VPN システム変数 (17 ページ)。VPN ポリシーの詳細については、[サイト間 VPN の管理：基本](#)を参照してください。
- リモートアクセス システム変数：表 5: リモートアクセス システム変数 (23 ページ)。リモートアクセス ポリシーの詳細については、[リモートアクセス VPN の管理の基礎](#)を参照してください。

表 1: デバイス システム変数 (すべてのデバイス タイプに適用)

名前	次元	説明
SYS_DEVICE_IDENTITY	[0]	[Tools] > [Device Properties] > [General] タブで定義された、Configuration Engine または Auto Update Server (AUS) によって管理されているデバイスの一意的デバイスアイデンティティ。これらのサーバによって管理されているデバイスのデバイスアイデンティティが必要です。
SYS_DOMAIN_NAME	[0]	[Tools] > [Device Properties] > [General] タブで定義された DNS ドメイン名。これは、[Platform] > [Device Admin] > [Hostname] ポリシーで定義された値と必ずしも同じではありません。
SYS_FW_OS_MODE	[0]	[Tools] > [Device Properties] > [General] タブで定義された FWSM または ASA デバイスのオペレーティング システム モード。値は、ROUTER (ルーテッドモード)、TRANSPARENT、または NOT_APPLICABLE です。
SYS_FW_OS_MULTI	[0]	FWSM または ASA がシングルコンテキスト モードまたはマルチコンテキスト モードのどちらか ([Tools] > [Device Properties] > [General] タブで定義) で実行されているか。値は、SINGLE、MULTI、または NOT_APPLICABLE です。
SYS_HOSTNAME	[0]	[Tools] > [Device Properties] > [General] タブで定義された デバイス ホスト名。これは、[Platform] > [Device Admin] > [Hostname] ポリシーで定義された値と必ずしも同じではありません。
SYS_IMAGE_NAME	[0]	[Tools] > [Device Properties] > [General] タブで定義された デバイス イメージ名。

名前	次元	説明
SYS_INTERFACE_IP_LIST	1	<p>インターフェイスポリシーで設定されたインターフェイスの IP アドレスとマスク。</p> <p>IP アドレスとマスクは、x.x.x.x/nn という形式になります（たとえば、10.20.1.2/24）。デバイスに定義されているインターフェイスがない場合、リストは返されません。</p> <p>SYS_INTERFACE_NAME_LIST および SYS_INTERFACE_IP_LIST 内の各要素は、インターフェイスの同じインデックスを共有します。たとえば、SYS_INTERFACE_NAME_LIST 内の要素 3 が Ethernet1 である場合、SYS_INTERFACE_IP_LIST 内の要素 3 は Ethernet1 の IP アドレスです。Ethernet1 に IP アドレスがない場合、SYS_INTERFACE_IP_LIST 内の要素 3 は空になります。</p> <p>この変数はオプションです。</p>
SYS_INTERFACE_NAME_LIST	1	<p>インターフェイスポリシーで設定されたデバイス上のインターフェイスの名前。デバイスに定義されているインターフェイスがない場合、リストは返されません。詳細については、前述の SYS_INTERFACE_IP_LIST の説明を参照してください。</p> <p>この変数はオプションです。</p>
SYS_MANAGEMENT_IP	[0]	[Tools] > [Device Properties] > [General] タブで定義されたデバイスの管理 IP アドレス。
SYS_MDF_TYPE	[0]	デバイス モデルを示す Cisco MetaData Framework (MDF) デバイス タイプ。この値は、[Tools] > [Device Properties] > [General] タブに表示され、デバイスを Security Manager に追加するときに決定されます。
SYS_OS_RUNNING_VERSION	[0]	[Tools] > [Device Properties] > [General] タブに表示される、デバイスで実行されているオペレーティングシステムのソフトウェアバージョン。たとえば、IOS プラットフォームでは 12.1, 12.2S などになります。この値は、デバイスからポリシーを検出するときに決定されます。
SYS_OS_TARGET_VERSION	[0]	[Tools] > [Device Properties] > [General] タブで定義された、デバイス設定の生成時に使用されるオペレーティングシステムバージョン。

名前	次元	説明
SYS_OS_TYPE	[0]	[Tools] > [Device Properties] > [General] タブで定義されたデバイスのオペレーティング システム。値は、IOS、PIX、ASA、FWSM、またはIPSです。この値は、デバイスを Security Manager に追加するときに設定します。
SYS_SYS_OID	[0]	デバイスのシステムオブジェクトID (SysObjId)。デバイスを Security Manager に追加するときに決定されます。

表 2: ファイアウォール システム変数

名前	次元	説明
SYS_FPM_INPUT_SP	1	「入力」方向の SYS_FPM_INTERFACE リスト内のエントリに対応するインターフェイスに適用される FPM ポリシーマップ名。 このデータは、Security Manager では設定されません。ルータの実行コンフィギュレーションから取得され、IOS_FPM FlexConfig で使用されます。
SYS_FPM_INTERFACE	1	インターフェイス名。 このデータは、Security Manager では設定されません。ルータの実行コンフィギュレーションから取得され、IOS_FPM FlexConfig で使用されます。
SYS_FPM_OUTPUT_SP	1	「出力」方向の SYS_FPM_INTERFACE リスト内のエントリに対応するインターフェイスに適用される FPM ポリシーマップ名。 このデータは、Security Manager では設定されません。ルータの実行コンフィギュレーションから取得され、IOS_FPM FlexConfig で使用されます。
SYS_FW_ACL_IN_NAME	1	インバウンド方向のトラフィックフィルタリング用にインターフェイスに適用される ACL の名前。各要素は、Cisco IOS ルータ、PIX ファイアウォール、ファイアウォールサービスモジュール、および ASA デバイスの SYS_INTERFACE_NAME_LIST 変数と 1 対 1 で対応します。 ファイアウォールアクセスルールを設定して、この変数の値を生成します。

名前	次元	説明
SYS_FW_ACL_OUT_NAME	1	アウトバウンド方向のトラフィックフィルタリング用にインターフェイスに適用される ACL の名前。この配列の各要素は、Cisco IOS ルータ、PIX ファイアウォール、ファイアウォールサービスモジュール、および ASA デバイスの SYS_INTERFACE_NAME_LIST 変数と 1 対 1 で対応します。 Access Rules ポリシーを設定して、この変数の値を生成します。
SYS_FW_BRIDGE_INTERFACE_NAMES	1	ブリッジインターフェイスの名前。 この変数は、IOS トランスペアレント ファイアウォールにだけ適用されます。 [Firewall] > [Transparent Rules] ポリシーを設定して、この変数の値を生成します。
SYS_FW_ETHERTYPERULE_ACL_NAMES	1	着信または発信トラフィックフィルタリングのためにインターフェイスに適用される EtherType アクセスリストの名前。この配列の各要素は、 SYS_FW_ETHERTYPERULE_INTERFACE_NAMES および SYS_FW_ETHERTYPERULE_DIRECTION_NAMES 変数の要素と 1 対 1 で対応します。 [Firewall] > [Transparent Rules] ポリシーを設定して、この変数の値を生成します。
SYS_FW_ETHERTYPERULE_DIRECTION_NAMES	1	EtherType アクセスリストが適用される方向。値は「in」または「out」のいずれかです。各要素は、 SYS_FW_ETHERTYPERULE_ACL_NAMES および SYS_FW_ETHERTYPERULE_INTERFACE_NAMES 変数の要素と 1 対 1 で対応します。 [Firewall] > [Transparent Rules] ポリシーを設定して、この変数の値を生成します。

名前	次元	説明
SYS_FW_ETHERTYPERULE_INTERFACE_NAMES	1	<p>EtherType アクセスリストが適用されるインターフェイス名。各要素は、SYS_FW_ETHERTYPERULE_ACL_NAMES および SYS_FW_ETHERTYPERULE_DIRECTION_NAMES 変数と 1 対 1 で対応します。</p> <p>[Firewall] > [Transparent Rules] ポリシーを設定して、この変数の値を生成します。</p>
SYS_FW_INSPECT_IN_NAME	1	<p>インバウンド方向の Cisco IOS ルータ インターフェイスに適用されるインスペクションルールの名前。この配列の各要素は、Cisco IOS ルータの SYS_INTERFACE_NAME_LIST 変数と 1 対 1 で対応します。</p> <p>[Inspection Rules] ポリシーを設定して、この変数の値を生成します。</p> <p>この変数はオプションです。</p>
SYS_FW_INSPECT_OUT_NAME	1	<p>アウトバウンド方向の Cisco IOS ルータ インターフェイスに適用されるインスペクションルールの名前。この配列の各要素は、Cisco IOS ルータの SYS_INTERFACE_NAME_LIST 変数と 1 対 1 で対応します。</p> <p>インスペクションルールポリシーをこの変数の値として設定します。</p> <p>この変数はオプションです。</p>
SYS_FW_INTERFACE_HARDWARE_ID_LIST	1	<p>デバイスのハードウェア ID。</p> <p>デバイスで Interface ポリシーを設定して、この変数の値を生成します。</p> <p>この変数はオプションです。</p>
SYS_FW_INTERFACE_NETWORK_LIST	1	<p>デバイスのインターフェイス ネットワーク。</p> <p>デバイスで Interface ポリシーを設定して、この変数の値を生成します。</p>
SYS_FW_INTERFACE_SECURITY_LEVEL_LIST	1	<p>デバイスのインターフェイス セキュリティ レベル。</p> <p>デバイスで Interface ポリシーを設定して、この変数の値を生成します。</p>

名前	次元	説明
SYS_FW_INTERFACE_STATE_LIST	1	デバイスのインターフェイス状態。 デバイスで Interface ポリシーを設定して、この変数の値を生成します。
SYS_FW_INTERFACE_VLAN_ID_LIST	[0]	デバイスの VLAN ID。 デバイスで Interface ポリシーを設定して、この変数の値を生成します。
SYS_FW_IPV6_ACL_IN_NAME	1	デバイスで In 方向に適用するすべての IPv6 ACL のリスト。 デバイスで In 方向に適用する IPv6 アクセスルールポリシーを設定して、この変数の値を生成します。
SYS_FW_IPV6_ACL_OUT_NAME	1	デバイスで Out 方向に適用するすべての IPv6 ACL のリスト。 デバイスで Out 方向に適用する IPv6 アクセスルールポリシーを設定して、この変数の値を生成します。
SYS_FW_MPCRULE_TRAFFICFLOW_TUNNELGROUPNAME	1	トラフィックフローオブジェクトで指定されたトンネルグループの名前。 トラフィックフローオブジェクトは PIX/ASA デバイスで class-map コマンドを設定し、トラフィックフローオブジェクト内のトンネルグループの名前がこの変数に読み込まれます。この変数は、PIX/ASA デバイス上のトンネルグループを作成するために <code>ASA_define_traffic_flow_tunnel_group</code> FlexConfig オブジェクトによって使用されます。 この変数はオプションです。
SYS_FW_MULTICAST_PIM_ACCEPT_REG_ROUTE_MAP	[0]	pim accept-register route-map コマンドで使用されるルートマップ名。 ルートマップの名前を入力し ([Platform] > [Multicast] > [PIM] > [Request Filter])、FlexConfig でその機能を設定して、この変数の値を生成します。 この変数はオプションです。

名前	次元	説明
SYS_FW_NAT0_ACL_NAMES	1	<p>nat interface_name 0 access-list acl_name コマンドで使用される ACL の名前。</p> <p>この変数はオプションです。</p>
SYS_FW_OSPF_PROCESS_ID_LIST	1	<p>PIX ファイアウォール、ファイアウォール サービス モジュール、および ASA デバイスにグローバルに設定される OSPF ルーティング プロセスの ID。</p> <p>[Platform] > [Routing] > [OSPF] ポリシーを設定して、この変数の値を生成します。</p>
SYS_FW_OSPF_REDISTRIBUTION_ROUTE_MAP_LIST	1	<p>PIX ファイアウォール、ファイアウォール サービス モジュール、および ASA デバイスに設定された OSPF redistribute コマンドに適用されるルートマップの名前。</p> <p>[Platform] > [Routing] > [OSPF] ポリシーを設定して、この変数の値を生成します。</p>
SYS_FW_POLICY_NAT_ACL_NAMES	1	<p>policy nat コマンド (0 以外のプール ID が指定された nat コマンド) で使用される ACL の名前。</p> <p>NAT ([NAT] > [Translation Rules] > [Policy NAT]) を設定して、この変数の値を生成します。この変数は、PIX 6.3(3) 以上、PIX/ASA 7.x、8.0(x)、8.1(x)、8.2(x)、および FWSM デバイスにだけ適用されます。この変数は、Cisco IOS ルータには適用されません。</p> <p>この変数はオプションです。</p>
SYS_FW_POLICY_STATIC_ACL_NAMES	1	<p>アクセスリストを含む policy static コマンドで使用される ACL の名前。</p> <p>NAT 0 ([NAT] > [Translation Rules] > [Policy NAT]) を設定して、この変数の値を生成します。変数には、nat-0、policy nat、および policy static コマンドで使用されるアクセスリスト名が含まれます。</p> <p>この変数は、PIX 6.3(3) 以上、PIX/ASA 7.x、8.0(x)、8.1(x)、8.2(x)、および FWSM デバイスにだけ適用されます。この変数は、Cisco IOS ルータには適用されません。</p> <p>この変数はオプションです。</p>

表 3: ルータ プラットフォーム システム変数

名前	次元	説明
SYS_ROUTER_BGP_AS_NUMBERS_LIST	1	<p>デバイス上のボーダーゲートウェイプロトコル (BGP) および Exterior Gateway Protocol (EGP) の自律システム (AS) 番号。</p> <p>[Router Platform] > [Routing] > [BGP] ポリシーを設定して、この変数の値を生成します。</p> <p>この変数はオプションです。</p>
SYS_ROUTER_EIGRP_AS_NUMBERS_LIST	1	<p>デバイス上の別の Enhanced Internet Gateway Routing Protocol (EIGRP) および Interior Gateway Protocol (IGP) の自律システム (AS) 番号。</p> <p>[Router Platform] > [Routing] > [EIGRP] ポリシーを設定して、この変数の値を生成します。</p> <p>この変数はオプションです。</p>
SYS_ROUTER_OSPF_PROCESS_IDS_LIST	1	<p>デバイス上の Open Shortest Path First (OSPF) Interior Gateway Protocol (IGP) プロセス番号。</p> <p>[Router Platform] > [Routing] > [OSPF Process] ポリシーを設定して、この変数の値を生成します。</p> <p>この変数はオプションです。</p>
SYS_ROUTER_QOS_CLASS_MAP_LIST	1	<p>デバイス上の QoS クラス マップの名前。</p> <p>Quality of Service ポリシーを設定して、この変数の値を生成します。</p> <p>この変数はオプションです。</p>
SYS_ROUTER_QOS_POLICY_MAP_LIST	1	<p>デバイス上の QoS ポリシー マップの名前。</p> <p>Quality of Service ポリシーを設定して、この変数の値を生成します。</p> <p>この変数はオプションです。</p>

表 4: VPN システム変数

名前	次元	説明
トポロジ デバイスが参加している VPN に関連する変数。VPN を設定して、これらの変数の値を生成します。		
SYS_VPN_TOPOLOGY	1	バーチャルプライベート ネットワーク (VPN) トポロジタイプ。値は、HUB_AND_SPOKE、POINT_TO_POINT、または FULL_MESH です。
SYS_VPN_TOPOLOGY_NAME	1	デバイスが参加している VPN トポロジの名前。
SYS_VPN_TOPOLOGY_ROLE	1	VPN 内のデバイスのロールに関する詳細。値は、PEER、HUB、または SPOKE です。
[デバイス (Devices)] デバイスが参加している VPN 内のデバイスに関連する変数。VPN を設定して、これらの変数の値を生成します。		
SYS_VPN_HOST_NAME	1	デバイスのホスト名。
SYS_VPN_LOCAL_PREFIXES	2	保護ネットワークのインターフェイスおよびネットワーク IP アドレス。
SYS_VPN_PRIVATE_INTERFACES	2	プライベート インターフェイスの名前。
SYS_VPN_PRIVATE_TUNNEL_ENDPT_IP	1	インターフェイス トンネル IP アドレス。
SYS_VPN_PUBLIC_INTERFACES	2	パブリック インターフェイスの名前。
SYS_VPN_TUNNEL_ENDPT_INTERFACE_IP	1	VPN エンドポイントの IP アドレス。IPSec では、エンドポイントは VPN インターフェイスであり、GRE ではトンネル ソースです。
SYS_VPN_TUNNEL_ENDPT_INTERFACE_NAME	1	VPN エンドポイントの名前。IPSec では、エンドポイントは VPN インターフェイスであり、GRE ではトンネル ソースです。

名前	次元	説明
SYS_VPN_VPNISM_PUBLIC_IFC	2	Catalyst 6000 シリーズスイッチのエクスポート ポート名。
Remote Peers		
デバイスが参加しているリモートピアに関連する変数。VPNを設定して、これらの変数の値を生成します。		
SYS_VPN_REM_PEER_BAK_LOGICAL_PRIVATE_IP	3	フェールオーバーハブのリモートピアのインターフェイス トンネル IP アドレス。この値は、Next Hop Resolution Protocol (NHRP) の DMVPN で使用されます。
SYS_VPN_REM_PEER_BAK_PREFIX	3	フェールオーバーハブのリモートピアの保護ネットワーク (インターフェイスおよびネットワーク IP アドレス)。
SYS_VPN_REM_PEER_BAK_PUBLIC_IP	3	フェールオーバーハブのリモートピアのパブリック インターフェイス名。
SYS_VPN_REM_PEER_BAK_TUNNEL_SRC	3	リモートピアのVPNエンドポイントのIPアドレス。IPSecでは、エンドポイントはVPNインターフェイスであり、GREではトンネルソースです。
SYS_VPN_REM_PEER_DEVICE_NAME	2	リモートピアのデバイス ホスト名。
SYS_VPN_REM_PEER_LOGICAL_PRIVATE_IP	2	リモートピアのインターフェイス トンネル IP アドレス。この値は、Next Hop Resolution Protocol (NHRP) の DMVPN で使用されます。
SYS_VPN_REM_PEER_PREFIX	3	リモートピアの保護ネットワーク (インターフェイスおよびネットワーク IP アドレス)。
SYS_VPN_REM_PEER_PRIVATE_IP	2	リモートピアのプライベート インターフェイス名。
SYS_VPN_REM_PEER_PUBLIC_IP	2	リモートピアのパブリック インターフェイス名。

名前	次元	説明
SYS_VPN_REM_PEER_TUNNEL_SRC	2	トンネル ソース (リモートピアのインターフェイス トンネルに含まれている場合)。
IPSec Proposal		
<p>IPSec Proposal ポリシーに関連する変数。詳細については、サイト間 VPN での IPsec プロポーザルの設定およびVPN トポロジにおけるハイアベイラビリティの設定を参照してください。</p> <p>IPSec Proposal ポリシーを設定して、この変数の値を生成します。</p>		
SYS_VPN_CRYPTOMAP_TYPE	1	クリプトマップタイプ。値は、STATIC または DYNAMIC です。
SYS_VPN_DYNAMIC_CRYPTOMAP_NAME	1	ダイナミック クリプトマップ名。
SYS_VPN_DYNAMIC_CRYPTOMAP_NUM	1	ダイナミック クリプトマップ番号。
SYS_VPN_STATIC_CRYPTOMAP_NAME	1	スタティック クリプトマップ名。
SYS_VPN_STATIC_CRYPTOMAP_NAME_BAK	1	フェールオーバーハブのスタティック クリプトマップ名。
SYS_VPN_STATIC_CRYPTOMAP_NUM	2	スタティック クリプトマップ番号。
SYS_VPN_STATIC_CRYPTOMAP_NUM_BAK	2	フェールオーバーハブのスタティック クリプトマップ番号。
事前共有キー		
<p>事前共有キーおよびIKE プロポーザルポリシーに関連する変数。詳細については、IKEv1 事前共有キー ポリシーの設定を参照してください。</p>		
SYS_VPN_IKE_AUTHENTICATION_MODE	1	<p>IKE ポリシーの認証方式。値は、pre-share、rsa-sig、rsa-encr、または dsa-sig です。</p> <p>IKE Proposal ポリシーを設定して、この変数の値を生成します。</p>
SYS_VPN_IKE_PRIORITY	1	<p>IKE ポリシーのプライオリティ番号。</p> <p>IKE Proposal ポリシーを設定して、この変数の値を生成します。</p>

名前	次元	説明
SYS_VPN_NEGOTIATION_MODE	1	ネゴシエーション方式。値は、MAIN_ADDRESS、MAIN_HOST、または AGGRESSIVE です。 Preshared Key ポリシーを設定して、この変数の値を生成します。
GRE モード GRE Modes ポリシーに関連する変数。詳細については、 [GRE Modes] ページについて を参照してください。		
SYS_VPN_BAK_TUNNEL_IFC	2	フェールオーバー ハブのリモートピアのインターフェイス トンネル番号（たとえば、tunnel0）。 VPN を設定して、この変数の値を生成します。
SYS_VPN_SIGP_PROCESS_NUMBER	1	Interior Gateway Protocol (IGP) のプロセス番号。 GRE Modes ポリシーを設定して、この変数の値を生成します。
SYS_VPN_SIGP_ROUTING_PROTOCOL	1	使用される保護された Interior Gateway Protocol (IGP) のタイプ。値は、STATIC、OSPF、EIGRP、RIPV2、BGP、または ODR です。 GRE Modes ポリシーを設定して、この変数の値を生成します。
SYS_VPN_SPOKE_TO_SPOKE_CONN	1	スポークツースポーク接続用に DMVPN を設定するかどうか。値は true または false です。 GRE Modes ポリシーを設定して、この変数の値を生成します。
SYS_VPN_TUNNEL_IFC	2	リモートピアのインターフェイス トンネル番号（たとえば、tunnel0）。 VPN を設定して、この変数の値を生成します。

名前	次元	説明
VRF Virtual Routing and Forwarding (VRF) に関連する変数。詳細については、 VRF 対応 IPsec の設定 を参照してください。 VPN VRF を設定して、これらの変数の値を生成します。		
SYS_VPN_VRF_AREA_ID	1	OSPF プロセス番号が選択された場合の領域 ID 番号。
SYS_VPN_VRF_MPLS_INTERFACE_IP	1	マルチプロトコル ラベル スイッチング (MPLS) インターフェイスの IP アドレス。
SYS_VPN_VRF_MPLS_INTERFACE_NAME	1	マルチプロトコル ラベル スイッチング (MPLS) インターフェイスの名前。
SYS_VPN_VRF_NAME	1	VRF 名。
SYS_VPN_VRF_PROCESS_NUMBER	1	Interior Gateway Protocol (IGP) プロセス番号。
SYS_VPN_VRF_RD	1	RD 値。
SYS_VPN_VRF_ROUTING_PROTOCOL	1	Interior Gateway Protocol (IGP) 値。IGP は、プロバイダー エッジ (PE) /マルチプロトコルラベルスイッチング (MPLS) ネットワークへの IPsec Aggregator のルーティングに使用されます。 値は、STATIC、OSPF、EIGRP、RIPV2、または BGP です。
SYS_VPN_VRF_SOLUTION	1	Virtual Routing and Forwarding (VRF) ソリューション。値は、1BOX または 2BOX です。
CA 認証局ポリシーに関連する変数。詳細については、 サイト間 VPN での IKEv1 公開キー インフラストラクチャ ポリシーの設定 を参照してください。		
SYS_VPN_CA_NAME	2	Certificate Authority (CA; 認証局) 名。 PKI ポリシーを設定して、この変数の値を生成します。

名前	次元	説明
EZVPN		
EZVPN に関連する変数。詳細については、 Easy VPN について を参照してください。		
SYS_VPN_EZVPN_GROUP_NAME	2	ユーザグループ名。 User Group ポリシーを設定して、この変数の値を生成します。
ダイヤルバックアップ		
ダイヤルバックアップ設定に関連する変数。詳細については、 ダイヤルバックアップの設定 を参照してください。		
SYS_VPN_RTR_WATCH	1	RTR/監視番号。 ダイヤルバックアップを設定して、この変数の値を生成します。
GETVPN		
Group Encrypted Transport (GET) VPN に関連する変数。詳細については、 Group Encrypted Transport (GET) VPN について を参照してください。		
SYS_GDOI_GROUP_NAME	1	Group Domain Of Interpretation (GDOI) グループの名前。 Group Encryption ポリシーを設定して、この変数の値を生成します ([Manage] > [Site-to-Site VPNs] > [Group Encryption Policy] > [Group Settings]) 。
SYS_GM_GET_ENABLED_INTF_NAME	1	プロバイダー エッジ (PE) への VPN 対応の外部インターフェイス。このインターフェイスで発信または終了するトラフィックは、暗号化または復号化が適宜評価されます。 グループ メンバーを設定して、この変数の値を生成します ([Manage] > [Site-to-Site VPNs] > [Group Members]) 。

名前	次元	説明
SYS_IPSEC_PROFILE_NAME	1	2つのグループメンバー間のIPsec暗号化に使用されるパラメータを定義する、プロファイルの名前。 Group Encryption ポリシーを設定して、この変数の値を生成します ([Manage] > [Site-to-Site VPNs] > [Group Encryption Policy] > [Security Associations])。
SYS_KS_REG_INTERFACE	[0]	Group Domain Of Interpretation (GDOI) 登録を処理するために割り当てられるキーサーバのインターフェイス。登録インターフェイスが指定されていない場合、GDOI 登録は任意のインターフェイスで行われる可能性があります。 キーサーバを設定して、この変数の値を生成します ([Manage] > [Site-to-Site VPNs] > [Key Servers])。

表 5: リモートアクセス システム変数

名前	次元	説明
SYS_ASA_RA_TUNNEL_GROUP_NAME	2	ASA デバイスのトンネルグループ名。
SYS_ASA_RA_USER_GROUP_NAME	2	ASA ユーザグループの名前。
SYS_EZVPN_RA_DYNAMIC_CRYPTOMAP_NAME	1	EZVPNのダイナミッククリプトマップ名。
SYS_EZVPN_RA_DYNAMIC_CRYPTOMAP_SEQ_NUM	1	EZVPNのダイナミッククリプトマップ番号。
SYS_EZVPN_RA_PUBLIC_INTERFACE_PIX	2	PIX ファイアウォールおよびASA デバイス専用のEZVPNの外部インターフェイス名。
SYS_EZVPN_RA_STATIC_CRYPTOMAP_NAME	1	EZVPNのスタティッククリプトマップ名。
SYS_EZVPN_RA_STATIC_CRYPTOMAP_SEQ_NUM	1	EZVPNのスタティッククリプトマップ番号。

名前	次元	説明
SYS_IOS_RA_CA_NAME	1	Cisco IOS デバイスの Certificate Authority (CA; 認証局) 名。
SYS_IOS_RA_PUBLIC_INTERFACE	1	Cisco IOS デバイスの外部インターフェイス名。
SYS_IOS_RA_USER_GROUP	1	Cisco IOS デバイスのユーザ グループ名。
SYS_IOS_RA_VRF_NAME	1	Cisco IOS デバイスの Virtual Routing and Forwarding (VRF) 名。

定義済みの FlexConfig ポリシー オブジェクト

Security Manager には、使用可能な定義済みの FlexConfig ポリシー オブジェクトが用意されています。これらのポリシーオブジェクトには、コマンドとスクリプトが事前に定義されています。

定義済みの FlexConfig ポリシー オブジェクトは読み取り専用オブジェクトです。これらの定義済みの FlexConfig ポリシー オブジェクトを編集するには、目的のオブジェクトを複製し、コピーに変更を加えて新しい名前で保存します。このようにすると、元の定義済みの FlexConfig は変更されません。これらの定義済みのポリシーオブジェクトのリストおよび各オブジェクトの詳細については、次の表を参照してください。

- 定義済みの ASA FlexConfig ポリシー オブジェクト : [表 8: 定義済みの Cisco IOS FlexConfig ポリシー オブジェクト \(28 ページ\)](#)
- 定義済みの Catalyst FlexConfig ポリシー オブジェクト : [表 7: 定義済みの Catalyst 6500/7600 FlexConfig ポリシー オブジェクト \(27 ページ\)](#)
- 定義済みの Cisco IOS FlexConfig ポリシー オブジェクト : [表 8: 定義済みの Cisco IOS FlexConfig ポリシー オブジェクト \(28 ページ\)](#)
- 定義済みの PIX Firewall FlexConfig ポリシー オブジェクト : [表 9: 定義済みの PIX 6.3 Firewall FlexConfig ポリシー オブジェクト \(29 ページ\)](#)
- 定義済みのルータ FlexConfig ポリシー オブジェクト : [表 10: 定義済みのルータ FlexConfig ポリシー オブジェクト \(29 ページ\)](#)

表 6: 定義済みの ASA FlexConfig ポリシー オブジェクト

名前	説明
ASA_add_ACES	アクセス コントロール エントリ (ACE) をデバイス上のすべてのアクセス コントロール リストに追加します。

名前	説明
ASA_add_EtherType_ACL_remark	EtherType アクセスリスト名のリストをループし、ACE または備考をリストに追加します。EtherType アクセスリストは、Security Manager におけるファイアウォールのトランスペアレントルールと同じです。この FlexConfig で CLI によって設定された備考は、トランスペアレントルールの [description] フィールドに表示されます。
ASA_add_IPv6_ACES	IPv6 アクセスリストのリストをループし、ACL の末尾に deny ip any any log エントリを追加します。
ASA_command_alias	copy running-config および copy startup-config コマンドに対して「save」という名前のコマンドエイリアスを作成します。
ASA_copy_image	TFTP サーバからフラッシュにイメージパッケージをコピーします。
ASA_csd_image	ASA Cisco Secure Desktop イメージを提供します。Cisco Security Manager サーバー上の /CSCOPx/tftpboot/device-hostname から CSD イメージをデバイスにコピーし、CSD イメージパスを設定します。[デバイスのプロパティ (Device Properties)] にデバイスのホスト名を必ず入力してください。イメージ名がデフォルトと異なる場合は、[Device Properties] > [Policy Object Overrides] > [Text Objects] > [AsaCsdImageName] で上書きできます。イメージがコピーおよび設定されたあとでデバイスからのこの FlexConfig を割り当て解除します。
ASA_define_traffic_flow_tunnel_group	SYS_FW_MPCRULE_TRAFFICFLOW_TUNNELGROUPNAME システム変数内のサイト間 VPN トンネル グループを定義します。この変数には、トラフィック フロー オブジェクトに定義されているトンネル グループ名が読み込まれます。
ASA_established	セキュリティ アプライアンスを介したアウトバウンド接続のリターンアクセスを許可します。このコマンドは、あるネットワークからのアウトバウンド接続であり、かつ、セキュリティ アプライアンスによって保護されている元の接続と、外部ホスト上の同じ2つのデバイス間におけるインバウンドのリターン接続に対して機能します。 established コマンドを使用して、接続の検索に使用する宛先ポートを指定します。指定することで、コマンドをより詳細に制御でき、宛先ポートが既知で送信元ポートが不明なプロトコルがサポートされます。 permitto および permitfrom キーワードでは、リターン インバウンド接続を定義します。
ASA_FTP_mode_passive	FTP モードをパッシブに設定します。

名前	説明
ASA_generate_route_map	[プラットフォーム (Platform)]>[マルチキャスト (Multicast)]>[PIM]>[要求フィルタ (Request Filter)]で設定された、 pim accept-register route-map コマンドで使用するルートマップを生成します。Cisco Security Manager は、 pim コマンドで使用するルートマップ名をエクスポートして、必要に応じて設定できるようにします。
ASA_IP_audit	ip-audit コマンドを使用して次の処理を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> • 攻撃シグニチャと一致するパケットに対するデフォルトアクション (alarm、drop、reset) を設定します。 • 情報シグニチャと一致するパケットに対するデフォルトアクション (alarm、drop、reset) を設定します。 • パケットが定義済みの攻撃シグニチャまたは情報シグニチャと一致する場合に実行するアクション (alarm、drop、reset) を特定する名前付き監査ポリシーを作成します。 • 監査ポリシーのシグニチャをディセーブルにします。 • 監査ポリシーをインターフェイスに割り当てます。
ASA_MGCP	メディア ゲートウェイ コントロール プロトコル (MGCP) インспекションのパラメータを定義するための特定のマップを示します。
ASA_no_router_Id	各 OSPF プロセスのルータ ID を削除します。
ASA_no_shut_Intf	デバイス上のすべてのインターフェイスをループし、イネーブルにします。
ASA_privilege	configuration 、 show 、および clear コマンドの権限レベルを設定します。
ASA_route_map	各 OSPF プロセスの再配布ルート マップ名を定義します。
ASA_RSA_KeyPair_generation	証明書の RSA キー ペアをリセットし、生成します。

名前	説明
ASA_svc_image	ASA SSL VPN クライアント イメージを提供します。Cisco Security Manager サーバー上の /CSCOpX/tftpboot/device-hostname から SVC イメージをデバイスにコピーし、SVC イメージパスを設定します。[デバイスのプロパティ (Device Properties)] にデバイスのホスト名を必ず入力してください。イメージ名がデフォルトと異なる場合は、[Device Properties] > [Policy Object Overrides] > [Text Objects] > [AsaSvcImageName] で上書きできます。イメージがコピーおよび設定されたあとでデバイスからのこの FlexConfig を割り当て解除します。
ASA_sysopt	<p>sysopt コマンドを使用して、次の手順を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • TCP 最大セグメント サイズが設定した値を超えないこと、または最小サイズが指定したサイズ未満であることを確認します。 • 最終的な通常の TCP クローズダウンシーケンスのあと、各 TCP 接続が 15 秒以上短縮 TIME_WAIT 状態で維持されるよう強制します。 • DNS A レコードアドレスを変更する DNS インスペクションをディセーブルにします。 • RADIUS アカウンティング応答内の認証キーを無視します。 • Web ブラウザがセキュリティ アプライアンス上の仮想 HTTP サーバを使用して再認証するとき、キャッシュからユーザ名とパスワードを入力できるようにします。
ASA_virtual	仮想 HTTP および Telnet サーバを設定します。

表 7: 定義済みの Catalyst 6500/7600 FlexConfig ポリシー オブジェクト

名前	説明
Cat6K_ECLB_algorithm	モジュールの EtherChannel ロード バランス アルゴリズムを設定します。
Cat6K_ECLB_port_mode	IPS センサーが接続されている Catalyst トランクポートに EtherChannel を適用します。ポートがトランクモードで設定されていることを確認します。
Cat6K_ECLB_portchannel	ポート チャネルをトランク モードに設定し、トランクが許可された VLAN を追加します。

名前	説明
Cat6K_firewall_multiple_vlan_interfaces	複数の SVI をプロビジョニングする必要がある場合は、複数の VLAN インターフェイス モードを設定します。

表 8: 定義済みの Cisco IOS FlexConfig ポリシー オブジェクト

名前	説明
IOS_add_bridge_interface_desc	ブリッジインターフェイスのリストをループし、「this is a bridge interface」という説明を追加します。
IOS_CA_server	認証局サーバを設定します。
IOS_compress_config	大きな Cisco IOS 設定を圧縮します。
IOS_config_root_wireless_station	851 や 871 などの Cisco IOS ルータに、ワイヤレス LAN のルート無線ステーションを作成し、設定します。
IOS_console_AAA_bypass	次のシナリオの例を示します。 <ul style="list-style-type: none"> • 認証、許可、アカウントिंग (AAA) アクセス コントロール モデルをイネーブルにします。 • ログイン時に AAA を設定します。 • ログインに対する AAA 認証をイネーブルにします。
IOS_Copy_Image	SVC イメージを Security Manager サーバからデバイスにコピーし、SVC イメージパスを設定します。イメージがコピーおよび設定されたあとでデバイスからのこの FlexConfig を割り当て解除します。
IOS_enable_SSL	SSL をイネーブルにします。
IOS_FPM	トラフィック クラス定義ファイルをルータにコピーし、ポリシー マップを適用します。
IOS_IPS_PUBLIC_KEY	IOS IPS デバイスの公開キーを定義します。公開キーは、Security Manager がシグニチャ更新を実行するために必要です。
IOS_IPS_SIGNATURE_CATEGORY	ios_ips 基本カテゴリ内のシグニチャを除くすべてのシグニチャを再試行します。
IOS_PKI_with_AAA	サブジェクト名全体を使用して PKI AAA 認可を設定します。
IOS_set_clock	クロックを Security Manager サーバの現在の時刻に設定します。

名前	説明
IOS_VOIP_advance	POTS ポート番号をループし、電話番号とポート番号または IP アドレス番号に関連付けます。
IOS_VOIP_simple	POTS ポート番号を電話番号とポート番号に関連付けます。
IOS_VPN_config_gre_tunnel	VPN 変数を使用して、デバイスが参加している各 VPN の GRE トンネルを設定します。
IOS_VPN_set_interface_desc	VPN 変数を使用して、デバイスが参加している各 VPN のパブリック インターフェイスの説明を更新します。
IOS_VPN_shutdown_inside_interface	VPN 変数を使用して、デバイスが参加している各 VPN のすべての内部インターフェイスをシャットダウンします。
IOS_VRF_on_vFW	仮想ファイアウォールインターフェイスの Virtual Routing and Forwarding (VRF) を設定します。

表 9: 定義済みの PIX 6.3 Firewall FlexConfig ポリシー オブジェクト

名前	説明
PIX6.3_nat0_acl_compiled	NAT 0 アクセス コントロール リストのコンパイルされたアクセス リストを生成します。
PIX6.3_policy_nat_acl_compiled	Policy NAT ACL のコンパイルされたアクセス リストを生成します。
PIX6.3_policy_static_acl_compiled	Policy Static ACL のコンパイルされたアクセス リストを生成します。
PIX_VPDN	Virtual Private Dialup Network (VPDN; バーチャルプライベートダイヤルアップ ネットワーク) を設定します。

表 10: 定義済みのルータ FlexConfig ポリシー オブジェクト

名前	説明
ROUTER_add_inspect_rules	インスペクションルールをループし、追加します。
ROUTER_BGP_no_auto_summary	no auto-summary サブコマンドを使用して、各 BGP プロセスの自動ルート要約を無効にします。 この FlexConfig ポリシー オブジェクトは、SYS_ROUTER_BGP_AS_NUMBERS_LIST システム変数内のボーダー ゲートウェイ プロトコル (BGP) 番号のリストを使用します。

名前	説明
ROUTER_BGP_untrusted_info	<p>distance bgp 255 255 255 サブコマンドを使用して、各ボーダー ゲートウェイ プロトコル (BGP) の BGP ルーティング情報を信頼できない情報とします。</p> <p>この FlexConfig ポリシー オブジェクトは、SYS_ROUTER_BGP_AS_NUMBERS_LIST システム変数内の BGP 番号のリストを使用します。</p>
ROUTER_EIGRP_min_cost_routes	<p>複数のルートで同じ宛先ネットワークへのコストルートが異なる場合、最小コストルートを使用するようにトラフィックを設定します。このことを行うには、等コストパスを持つ異なるインターフェイスに対してマルチインターフェイスロード分割を使用します。</p> <p>この FlexConfig ポリシー オブジェクトは、SYS_ROUTER_EIGRP_AS_NUMBERS_LIST システム変数内のルータの Enhanced Interior Gateway Routing Protocol (EIGRP) 番号のリストを使用します。</p>
Router_EIGRP_no_auto_summary	<p>no auto-summary サブコマンドを使用して、各ルータの Enhanced Interior Gateway Routing Protocol (EIGRP) プロセスの自動ルート要約を無効にします。この FlexConfig ポリシー オブジェクトは、SYS_ROUTER_EIGRP_AS_NUMBERS_LIST システム変数内の EIGRP 番号のリストを使用します。</p>
ROUTER_interface_prevent_dos_attacks	<p>すべてのデバイスインターフェイスに対する Denial-of-Service (DoS; サービス拒絶) 攻撃を阻止します。</p> <p>この FlexConfig ポリシー オブジェクトは、SYS_INTERFACE_NAME_LIST システム変数内のインターフェイス名のリストを使用します。</p>
ROUTER_OSPF_no_router_Id	<p>各 OSPF プロセスのルータ OSPF ID を削除します。</p> <p>この FlexConfig ポリシーは、SYS_ROUTER_OSPF_PROCESS_IDS_LIST システム変数内の OSPF ID のリストを使用します。</p>
ROUTER_QoS_Class_Map_description	<p>QoS クラス マップの説明を設定します。</p> <p>この FlexConfig ポリシー オブジェクトは、SYS_ROUTER_QOS_CLASS_MAP_LIST システム変数内のルータ QoS クラス名のリストを使用します。</p>

名前	説明
ROUTER_QoS_Policy_Map _description	QoS ポリシーの説明を設定します。 この FlexConfig ポリシー オブジェクトは、 SYS_ROUTER_QOS_POLICY_MAP_LIST システム変数内の ルータ QOS ポリシー名のリストを使用します。

FlexConfig ポリシーとポリシー オブジェクトの設定

FlexConfig ポリシー オブジェクトの作成および管理方法は、他のポリシー オブジェクトを作成する方法と同じです。ここでは、FlexConfig ポリシーとポリシー オブジェクトの作成方法について説明します。FlexConfig ポリシー オブジェクトに対して実行できるその他のタスク（削除など）については、[ポリシー オブジェクトの操作：基本手順](#)を参照してください。

- [FlexConfig の作成シナリオ](#) (31 ページ)
- [FlexConfig ポリシー オブジェクトの作成](#) (35 ページ)
- [FlexConfig ポリシーの編集](#) (43 ページ)

FlexConfig の作成シナリオ

このシナリオでは、Security Manager に付属している定義済みの FlexConfig ポリシー オブジェクトのいずれかを使用して、ASA デバイスのメディア ゲートウェイ コントロール プロトコル (MGCP) を設定する手順を示します。MGCP は、メディア ゲートウェイ (電話回線のオーディオをデータ パケットに変換するデバイス) を制御するためにコール エージェント アプリケーションによって使用されます。Security Manager では MGCP の設定はサポートされませんが、FlexConfig ポリシー オブジェクトを使用して設定を行うことができます。これは、FlexConfig を使用すると Security Manager ではサポートされない機能をネットワークに合わせてカスタマイズできることを示しています。

このシナリオでは、次の作業を実行します。

1. 既存のポリシー オブジェクトを複製して、ポリシー オブジェクトを作成します。
2. ポリシー オブジェクトをデバイスに割り当てます。
3. 設定をプレビューして、設定が正しいことを確認します。
4. ポリシー オブジェクトを別のデバイスと共有します。
5. 設定をデバイスに展開します。

定義済みの FlexConfig ポリシー オブジェクトのコピーを作成して変更したり、独自のオブジェクトを作成したりして、このシナリオを他の機能を実装するための例として使用できます。

はじめる前に

このシナリオ用に 2 つの ASA デバイスを Security Manager に追加します。

ステップ 1 次の手順を実行して、FlexConfig ポリシー オブジェクトを複製します。

- a) [管理 (Manage)] > [ポリシーオブジェクト (Policy Objects)] を選択して [Policy Object Manager] を開きます (Policy Object Manager を参照)。
- b) コンテンツテーブルから [FlexConfigs] を選択します。右ペインのテーブルには、既存の FlexConfig オブジェクトが一覧表示されます。
- c) ASA_MGCP FlexConfig を右クリックし、[オブジェクトの複製 (Clone Object)] を選択します。[Add FlexConfig] ダイアログボックスが表示されます ([Add FlexConfig]/[Edit FlexConfig] ダイアログボックス (36 ページ) を参照)。
- d) 新しい FlexConfig オブジェクトの名前 (この例では MyASA_MGCP) を入力します。
- e) 新しいグループ名とオブジェクトの説明を入力します。

ヒント グループ名と説明は任意です。作成するオブジェクトの説明とグループを設定することを推奨します。

- f) [OK] をクリック新しい FlexConfig オブジェクトがリストに表示されます。

ステップ 2 \$callAgentList テキスト オブジェクトを複製し、編集します。

元の ASA_MGCP FlexConfig オブジェクトは、テキスト オブジェクトである変数 \$callAgentList を使用します。このテキストオブジェクトは読み取り専用であり、編集できません。このテキストオブジェクトを複製すると、複製オブジェクトを編集してネットワーク設定に適用できます。

- a) コンテンツテーブルから [テキストオブジェクト (Text Objects)] を選択します。
- b) **callAgentList** を右クリックし、[オブジェクトの複製 (Clone Object)] を選択します。[Add Text Object] ダイアログボックスが表示されます。
- c) テキスト オブジェクトの名前を編集します。この例では、名前を mycallAgentList に変更します。
- d) カラム A の最初の値をダブルクリックし、ネットワークのコール エージェントの IP アドレスを入力します。この例では、値を 10.10.10.10 に変更します。
- e) カラム B の最初の値をダブルクリックし、ネットワークのコール エージェントのポート番号を入力します。この例では、値を 105 に変更します。
- f) 別のコール エージェントの IP アドレスとポート番号の値を変更します。この例では、IP アドレスを 20.20.20.20 に変更し、ポート番号を 106 に変更します。または、ネットワーク内にコール エージェントが 1 つだけある場合、[Number of Rows] フィールドの数を減らすことによって、テーブルの 2 行目を削除できます。同様に、コール エージェントが 3 つ以上ある場合は、このフィールドの数を増やすことによって、行を追加できます。

このことは、[Number of Columns] フィールドの増減によってカラム数を増減するのと似ています。

- g) [OK] をクリック新しいテキスト オブジェクトがテキスト オブジェクトのリストに表示されます。

ステップ 3 次の手順を実行して、新しい変数を使用するように新しい FlexConfig ポリシー オブジェクトを編集します。

- a) コンテンツテーブルから [FlexConfigs] を選択します。
- b) MyASA_MGCP をダブルクリックします。[Edit FlexConfig] ダイアログボックスが表示されます。
- c) \$mycallAgentList を読み取るように \$callAgentList を編集します。

- d) [OK] をクリック
「次の変数は定義されていません : mycallAgentList 今すぐ定義しますか? (The following variables are undefined: mycallAgentList Define them now?) 」という警告が表示されます。
- e) 警告の [はい (Yes)] をクリックします。
[FlexConfig Undefined Variables] ダイアログボックスが表示され、[Variable Name] カラムに mycallAgentList が表示されます。
- f) [オブジェクトタイプ (Object Type)] リストから [テキストオブジェクト (Text Objects)] を選択します。[Text Objects] ウィンドウが表示されます。
- g) [使用可能なテキストオブジェクト (Available Text Objects)] リストから **mycallAgentList** を選択し、[OK] をクリックします。
- h) [FlexConfig未定義変数 (FlexConfig Undefined Variables)] ウィンドウで [OK] をクリックします。
[Edit FlexConfig] ダイアログボックスの [Variables] リストに mycallAgentList 変数が表示されます。
- i) [FlexConfigの編集 (Edit FlexConfig)] ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。
- j) [Policy Object Manager] ウィンドウを閉じます。

ステップ 4 次の手順を実行して、新しい FlexConfig ポリシー オブジェクトをデバイスに割り当てます。

- a) デバイス ビューで、MGCP を設定するデバイスを選択します。
- b) ポリシーセクタから [FlexConfigs] を選択します。[FlexConfigs Policy] ページが表示されます。
- c) [追加 (Add)] ボタンをクリックします。[FlexConfigs Selector] ダイアログボックスが表示されます。
- d) 新しい MyASA_MGCP FlexConfig ポリシーオブジェクトを選択し、[>>] をクリックしてポリシーオブジェクトを [選択されたFlexConfig (Selected FlexConfigs)] 列に追加します。

Ctrl キー (複数のオブジェクトを選択する場合) または Shift キー (複数の連続するオブジェクトを選択する場合) を押しながら選択すると、一度に複数のポリシー オブジェクトを選択できます。

- e) [OK] をクリック
MyASA_MGCP ポリシー オブジェクトは設定にアペンドされるように設定されているため、このオブジェクトは [Appended FlexConfigs] テーブルに追加されます。設定の先頭に追加する FlexConfig ポリシー オブジェクトをプリペンドされるポリシー オブジェクトとして設定します。
- f) [保存 (Save)] をクリックします。

ステップ 5 次の手順を実行して、コマンドが生成されてデバイスに送信される前にコマンドをプレビューします。

- a) [FlexConfigs Policy] ページで、MyASA_MGCP ポリシー オブジェクトを選択します。
- b) [プレビュー (Preview)] をクリックします。

この FlexConfig ポリシー オブジェクトで生成されたコマンドおよび選択したデバイスに割り当てられている値が表示されます。変更された値を確認します。

例 :

```
class-map sj_mgcp_class
  match access-list mgcp_list
  exit
mgcp-map inbound_mgcp
  call-agent 10.10.10.10 105
```

```

    call-agent 20.20.20.20 106
    gateway 10.10.10.115 101
    gateway 10.10.10.116 102
  command-queue 150
  exit
policy-map inbound_policy
  class sj_mgcp_class
    inspect mgcp inbound_mgcp
  exit
exit
service-policy inbound_policy interface outside

```

ステップ6 MGCPを必要とする他のASAデバイスがある場合は、次の手順を実行して、このポリシーをそれらのデバイスと共有できます。

- a) ポリシーセレクトで [FlexConfigs] を右クリックし、[ポリシーの共有 (Share Policy)] を選択します。
[Share Policy] ダイアログボックスが表示されます。
- b) ポリシーの名前を入力し、[OK] をクリックします。この例では、MyShared_ASA_MGCP と入力します。

FlexConfigs ポリシーの上にあるバナーに、デバイスが共有ポリシーを使用していることと、ポリシーの名前が示されます。

- c) FlexConfig バナーで、[Assigned To] フィールドのリンクをクリックします。この例では、リンクには [1個のデバイス (1 Device)] というラベルが付いています。これは、この共有ポリシーが1つのデバイス (表示しているデバイス) に割り当てられていることを示します。

リンクをクリックすると、[Shared Policy Assignments] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスを使用して、[使用可能なデバイス (Available Devices)] リストでこのポリシーを使用する他のデバイスを選択し、[>>] をクリックして、ポリシーが割り当てられているデバイスのリストに追加できます。

- d) [OK] をクリック [Shared Policy Assignments] ダイアログボックスが閉じ、選択した追加デバイスが共有ポリシーを使用するように設定されます。バナーのリンクが変わり、現在このポリシーを使用しているデバイスの数が示されます (この例では [2個のデバイス (2 Devices)])。

ヒント ポリシー ビューからポリシーを共有することもできます。[ビュー (View)] > [ポリシー ビュー (Policy View)] を選択し、ポリシータイプセレクトで [FlexConfigs] を選択して MyShared_ASA_MGCP ポリシーを選択します。次に、[割り当て (Assignments)] タブをクリックし、ポリシーを割り当てるデバイスを選択して [>>] をクリックしてから [保存 (Save)] をクリックします。

ステップ7 変更を送信し、設定をデバイスに展開します。設定の展開の詳細については、[展開および Configuration Archive の使用](#)を参照してください。

FlexConfig ポリシー オブジェクトの作成

FlexConfig ポリシー オブジェクトを作成して、Security Manager でサポートされない機能をデバイスに設定できます。FlexConfig オブジェクトの詳細については、[FlexConfig ポリシーとポリシー オブジェクトについて \(2 ページ\)](#) を参照してください。



ヒント このオブジェクトタイプを使用するポリシーまたはオブジェクトを定義するときに FlexConfig ポリシー オブジェクトを作成することもできます。詳細については、[ポリシーのオブジェクトの選択](#) を参照してください。

はじめる前に

コマンドがデバイスの VPN またはファイアウォール設定とまったく競合していないことを確認します。

次の点を考慮してください。

- Security Manager は、コマンドを操作または検証しません。コマンドをデバイスに展開するだけです。
- インターフェイスのコマンドセットが複数ある場合は、最後のコマンドセットだけが展開されます。したがって、開始コマンドと終了コマンドを使用してインターフェイスを設定しないことを推奨します。
- ルートマップを含む FlexConfig オブジェクト（たとえば、OSPF またはマルチキャストルートマップ）を編集する場合は、ルートマップの前に対応するアクセスコントロールリスト（ACL）を定義する必要があります。これはデバイスの要件です。ルートマップの前に ACL を定義しない場合は、展開エラーが発生します。

関連項目

- [FlexConfig の作成シナリオ \(31 ページ\)](#)
- [ポリシー オブジェクトの操作：基本手順](#)
- [ポリシー オブジェクトの作成](#)
- [ポリシーの管理](#)

ステップ 1 [管理 (Manage)] > [ポリシーオブジェクト (Policy Objects)] を選択して [Policy Object Manager] ウィンドウを開きます ([Policy Object Manager](#) を参照)。

ステップ 2 ポリシー オブジェクト タイプセレクタから [FlexConfigs] を選択します。

ステップ 3 作業領域内で右クリックし、[新規オブジェクト (New Object)] を選択します。

[FlexConfig オブジェクトの追加 (Add FlexConfig Object)] ダイアログボックスが表示されます ([\[Add FlexConfig\]/\[Edit FlexConfig\] ダイアログボックス \(36 ページ\)](#) を参照)。

ステップ 4 オブジェクトの名前を入力し、任意で説明を入力します。その他の任意の情報フィールドは次のとおりです。

- [Group] : 既存のグループ名を選択するか、または新しいグループ名を入力します。この名前は、使用するオブジェクトの識別に役立ちます。
- [Negate For] : この FlexConfig オブジェクトが別のオブジェクトを無効にする設計になっている場合は、このオブジェクトによって取り消すコマンドを含む FlexConfig オブジェクトの名前を入力します。

ステップ 5 [Type] フィールドで、オブジェクト内のコマンドを Security Manager ポリシーから生成された設定にプリペンド（設定の先頭に配置）するか、またはアペンド（設定の末尾に配置）するかを選択します。

ステップ 6 オブジェクト本体領域に、目的の設定ファイル出力を生成するためのコマンドと命令を入力します。次のタイプのデータを入力できます。

- 処理を制御するためのスクリプト作成コマンド。詳細については、[スクリプト言語命令の使用](#)（3 ページ）を参照してください。
- FlexConfig ポリシー オブジェクトの展開先のデバイスで実行されているオペレーティング システムでサポートされる CLI コマンド。詳細については、[FlexConfig ポリシー オブジェクトにおける CLI コマンドの使用](#)（3 ページ）を参照してください。
- 変数。右クリックメニューを使用して変数を挿入できます。これにより、単純な単一値テキスト変数の作成（[テキストオブジェクトの作成（Create Text Object）]）、既存のポリシーオブジェクトからの変数の選択（[ポリシーオブジェクトの挿入（Insert Policy Object）]）、またはシステム変数の選択（[システム変数の挿入（Insert System Variable）]）ができます。詳細については、[FlexConfig オブジェクトの変数について](#)（6 ページ）を参照してください。

ヒント 変数を削除する場合は、オブジェクト本体で変数を選択し、[Cut] ボタンをクリックするか、または Back Space キーか Del キーを押します。[OK] をクリックして変更を保存すると、変数が変数のリストから削除されます。

ステップ 7 オブジェクト本体の上にある [FlexConfig の検証（Validate FlexConfig）] アイコンボタンをクリックして、オブジェクトの整合性と展開の可能性を確認します。

ステップ 8 [OK] をクリックしてオブジェクトを保存します。

[Add FlexConfig]/[Edit FlexConfig] ダイアログボックス

[Add FlexConfig]/[Edit FlexConfig] ダイアログボックスを使用して、FlexConfig ポリシー オブジェクトを作成または編集します。FlexConfig オブジェクトは、Security Manager ポリシーから生成された設定の前後にコンフィギュレーションコマンドを追加できる小さなプログラムであり、製品の機能を拡張してデバイスを設定できます。これらのポリシー オブジェクトは、FlexConfig デバイスまたは共有ポリシーで使用します。

FlexConfig ポリシー オブジェクトを作成する前に、[FlexConfig ポリシーとポリシー オブジェクトについて](#)（2 ページ）の各項をお読みください。

ナビゲーションパス

[管理 (Manage)] > [ポリシーオブジェクト (Policy Objects)] を選択し、オブジェクトタイプセレクタから [FlexConfigs] を選択します。作業領域内を右クリックして [新規オブジェクト (New Object)] を選択するか、行を右クリックして [オブジェクトの編集 (Edit Object)] を選択します。

関連項目

- [FlexConfig ポリシー オブジェクトの作成 \(35 ページ\)](#)
- [FlexConfig ポリシーの編集 \(43 ページ\)](#)

フィールドリファレンス

表 11: FlexConfig Editor ダイアログボックス

要素	説明
名前	最大 128 文字のオブジェクト名。オブジェクト名では、大文字と小文字が区別されません。詳細については、 ポリシーオブジェクトの作成 を参照してください。
説明	(任意) オブジェクトの説明。
グループ	このオブジェクトが属している FlexConfig オブジェクトのグループの名前 (ある場合)。名前を入力するか、またはリストから既存の名前を選択できます。このフィールドは情報提供だけを目的としており、Policy Object Manager の [FlexConfig Objects] ページで FlexConfig オブジェクトを検索するのに役立ちます。
タイプ (Type)	オブジェクト内のコマンドを設定にプリペンド (設定の先頭に配置) するか、またはアペンド (設定の末尾に配置) するか。
Negate For	この FlexConfig オブジェクトで取り消すコマンドを含む FlexConfig オブジェクトの名前。このフィールドは情報提供だけを目的としており、オブジェクトの処理には影響しません。 たとえば、FlexConfig A にコマンド banner login があり、FlexConfig B にコマンド no banner login がある場合、FlexConfig B は FlexConfig A の設定を無効にします。
FlexConfig Object Body	

要素	説明
[Object Body] 編集ボックス	<p>目的の設定ファイル出力を生成するためのコマンドと命令。次のタイプのデータを入力できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 処理を制御するためのスクリプト作成コマンド。詳細については、スクリプト言語命令の使用 (3 ページ) を参照してください。 • FlexConfig ポリシー オブジェクトの展開先のデバイスで実行されているオペレーティング システムでサポートされる CLI コマンド。詳細については、FlexConfig ポリシー オブジェクトにおける CLI コマンドの使用 (3 ページ) を参照してください。 • 変数。右クリックメニューを使用して変数を挿入できます。これにより、単純な単一値テキスト変数の作成 ([テキストオブジェクトの作成 (Create Text Object)])、既存のポリシーオブジェクトからの変数の選択 ([ポリシーオブジェクトの挿入 (Insert Policy Object)])、またはシステム変数の選択 ([システム変数の挿入 (Insert System Variable)]) ができます。詳細については、FlexConfig オブジェクトの変数について (6 ページ) を参照してください。
[Undo] ボタン	直前のアクションを取り消します。
[Redo] ボタン	直前に取り消したアクションを実行します。
[Cut] ボタン	強調表示されているテキストを削除し、クリップボードにコピーします。
[Copy] ボタン	強調表示されているテキストをクリップボードにコピーします。
[Paste] ボタン	直前に切り取ったテキストまたはコピーしたテキストを貼り付けます。
[Find] ボタン	オブジェクト本体の指定したテキスト文字列を検索します。
[Validate FlexConfig] ボタン	FlexConfig オブジェクトの整合性および展開の可能性を確認します。
FlexConfig Object Variables	
このテーブルには、FlexConfig オブジェクトで使用されている変数が一覧表示されます。	
名前	変数の名前。セルをクリックして名前を編集します。これにより、FlexConfig オブジェクト本体内の名前も変更されます。
デフォルト値 (Default Value)	<p>値が指定されていない場合に使用する値。セルをクリックして、ユーザ定義の変数の値を編集します。システム定義の変数は編集できません。</p> <p>(注) オプションの変数を除き、デフォルト値が指定されていない場合は、変数の値を指定する必要があります。</p>

要素	説明
Object Property	<p>オブジェクトのプロパティ。オブジェクトのプロパティ名の形式は次のとおりです。</p> <p><i>type.name .data.property</i></p> <p>ここで</p> <ul style="list-style-type: none"> • [タイプ (Type)] : オブジェクトのタイプ。テキスト、ネットワーク、AAA サーバーなど。 • [名前 (Name)] : オブジェクトの名前。 • [Data] : オブジェクトのプロパティがデータであることを示します。 • [プロパティ (Property)] : データのプロパティ。
次元	<p>変数のデータの構造。値は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 0 : スカラ (単一の文字列) • 1 : 1 次元配列 (文字列のリスト) • 2 : 2 次元配列 (文字列のテーブル)
オプション	変数に値が必要かどうか。
説明	オブジェクトの内容の説明。セルをクリックして説明を編集します。

[Create Text Object] ダイアログボックス

[Create Text Object] ダイアログボックスをショートカットとして使用して、FlexConfig ポリシーオブジェクトで使用する次元0のテキストオブジェクト (単一値の変数) を作成します。変数の名前およびその変数に割り当てる値を入力します。[OK] をクリックすると、変数がカーソル位置の FlexConfig オブジェクトに追加され、オブジェクトの変数のリストに追加されます。

ナビゲーションパス

[\[Add FlexConfig\]/\[Edit FlexConfig\] ダイアログボックス \(36 ページ\)](#) で、オブジェクト本体のフィールドを右クリックし、[テキストオブジェクトの作成 (Create Text Object)] を選択します。



ヒント 複数値のテキストオブジェクトを作成する場合は、右クリックして [ポリシーオブジェクトの挿入 (Insert Policy Object)] > [テキストオブジェクト (Text Objects)] を選択し、使用可能なオブジェクトのリストの下にある [追加 (Add)] ボタンをクリックします。詳細については、[\[Add Text Object\]/\[Edit Text Object\] ダイアログボックス \(40 ページ\)](#) を参照してください。

[Add Text Object]/[Edit Text Object] ダイアログボックス

[Add Text Object]/[Edit Text Object] ダイアログボックスを使用して、テキストオブジェクトを作成、編集、複製、および表示します。テキストオブジェクトを受け入れる別のポリシーオブジェクトで、テキストオブジェクトを参照または操作する必要がある場合は、テキストオブジェクトを作成します。

テキストオブジェクトは、ポリシーオブジェクト変数のタイプの1つです。これらの変数は名前と値のペアであり、値には単一の文字列、文字列のリスト、または文字列のテーブルを指定できます。FlexConfig ポリシーによる参照または操作の対象となる任意のタイプのテキストデータを入力できます。FlexConfig の詳細については、[FlexConfig ポリシーとポリシーオブジェクトについて \(2 ページ\)](#) を参照してください。

まず次元を選択して変数を作成します。たとえば、簡単な単一値の変数の場合は0次元、変数のリストの場合は1次元、変数のテーブルの場合は2次元を選択します。次元（および該当する場合は、行数とカラム数）を選択して目的のグリッドを作成したあと、まずセルをクリックして各セルにデータを入力します。

ナビゲーションパス

[管理 (Manage)] > [ポリシーオブジェクト (Policy Objects)] を選択し、次にオブジェクトタイプセクタから [テキストオブジェクト (Text Objects)] を選択します。作業領域内を右クリックして [新規オブジェクト (New Object)] を選択するか、行を右クリックして [オブジェクトの編集 (Edit Object)] を選択します。

フィールドリファレンス

表 12: [Text Object] ダイアログボックス

要素	説明
名前	最大 128 文字のオブジェクト名。オブジェクト名では、大文字と小文字が区別されません。詳細については、 ポリシーオブジェクトの作成 を参照してください。
説明	(任意) 最大 1024 文字のオブジェクトの説明。
次元	変数のデータの構造。 <ul style="list-style-type: none"> • 0 : スカラ (単一の文字列) • 1 : 1 次元配列 (文字列のリスト) • 2 : 2 次元配列 (文字列のテーブル)
Number of Rows	1 次元または 2 次元の場合は、変数内のデータ行の数。
Number of Columns	2 次元の場合は、変数内のデータ カラムの数。

要素	説明
[text field]	テキストオブジェクトの内容。セルをクリックしてデータを入力します。
カテゴリ	オブジェクトに割り当てられたカテゴリ。カテゴリを使用すると、ルールとオブジェクトを分類および識別できます。 カテゴリ オブジェクトの使用 を参照してください。
デバイスごとに値のオーバーライドを許可 オーバーライド [編集 (Edit)] ボタン	デバイスレベルでのオブジェクト定義の変更を許可するかどうか。詳細については、 ポリシーオブジェクトの上書きの許可および個々のデバイスのポリシー オブジェクト オーバーライドについて を参照してください。 デバイスのオーバーライドを許可した場合は、[編集 (Edit)] ボタンをクリックして、オーバーライドを作成、編集、および表示できます。[オーバーライド (Overrides)] フィールドには、このオブジェクトに対するオーバーライドを持つデバイスの数が表示されます。

[FlexConfig Undefined Variables] ダイアログボックス

[FlexConfig Undefined Variables] ダイアログボックスを使用して、FlexConfig オブジェクトで使用される、まだ定義されていない変数を定義します。ポリシー オブジェクト タイプのリストから選択するか、または使用する新しいポリシー オブジェクトを追加できます。

テーブル内の各行は、単一の未定義の変数を表します。



ヒント 処理の制御のためにスクリプト言語で使用されるローカル変数を定義する必要はありません。変数の詳細については、[FlexConfig オブジェクトの変数について \(6 ページ\)](#) を参照してください。

ナビゲーションパス

[\[Add FlexConfig\]/\[Edit FlexConfig\] ダイアログボックス \(36 ページ\)](#) で変数名を入力してその変数の値を定義していない場合は、[OK] をクリックすると、Security Manager に警告が表示され、変数を定義するかどうか尋ねられます。[はい (Yes)] をクリックすると、このダイアログボックスが開きます。

フィールドリファレンス

表 13: [FlexConfig Undefined Variables] ダイアログボックス

要素	説明
変数名	FlexConfig オブジェクトで使用されている未定義の変数の名前。

要素	説明
オブジェクトタイプ	変数に割り当てる値が含まれているポリシーオブジェクトのタイプ。ローカル変数の場合は、[Undefined] オブジェクトタイプを使用します。 定義する変数について、選択した変数に割り当てる特定のポリシー オブジェクトとそのオブジェクト内の値を選択する必要があります。 まず、このリストからポリシー オブジェクトのタイプを選択します。特定のポリシーオブジェクトを選択するように要求されます。[OK] をクリックすると、目的の値を含むそのオブジェクト内の特定のプロパティを選択するように要求されます（ [Property Selector] ダイアログボックス (42 ページ) を参照）。[プロパティセクタ (Property Selector)]ダイアログボックスで値を選択し、[OK] をクリックすると、値が変数に割り当てられます。
Object Property	オブジェクトのプロパティ。詳細な説明については、 [Add FlexConfig]/[Edit FlexConfig] ダイアログボックス (36 ページ) を参照してください。
オプション	変数に値が必要かどうか。

[Property Selector] ダイアログボックス

[Property Selector] ダイアログボックスを使用して、FlexConfig ポリシー オブジェクト内の変数に割り当てる、選択したポリシーオブジェクト内の特定のプロパティを選択します。ダイアログボックスのタイトルは、選択したポリシー オブジェクトのタイプを示します（たとえば、[AAA Server Groups Property Selector]）。

変数の詳細については、[FlexConfig オブジェクトの変数について \(6 ページ\)](#) を参照してください。

ナビゲーションパス

- [\[Add FlexConfig\]/\[Edit FlexConfig\] ダイアログボックス \(36 ページ\)](#) で右クリックし、[ポリシーオブジェクトの挿入 (Insert Policy Object)]メニューから特定のポリシー オブジェクト グループタイプを選択し、要求されたら特定のポリシーオブジェクトを選択して [OK] をクリックします。
- [\[FlexConfig Undefined Variables\] ダイアログボックス \(41 ページ\)](#) で [オブジェクトタイプ (Object Type)]フィールドからポリシーオブジェクトタイプを選択し、要求されたら特定のポリシーオブジェクトを選択して [OK] をクリックします。

フィールドリファレンス

表 14: [Property Selector] ダイアログボックス

要素	説明
Object Property	変数に割り当てる値が含まれているオブジェクトのプロパティ。プロパティの詳細については、それらのオブジェクトの設定に関連する項目を参照してください。
名前	変数の名前。このフィールドは、未定義の変数を定義している場合には使用できません。
説明	(任意) 変数の説明。このフィールドは、未定義の変数を定義している場合には使用できません。

FlexConfig ポリシーの編集

デバイスビューまたはポリシービュー（共有ポリシーの場合）でポリシーセレクトから [FlexConfigs] を選択して、FlexConfig ポリシーをデバイスに割り当てることができます。Security Manager によって生成された設定を展開する場合と同様に、これらのポリシーを含む設定を展開できます。FlexConfig ポリシー オブジェクトを設定して共有 FlexConfig ポリシーを作成する手順のシナリオについては、[FlexConfig の作成シナリオ（31 ページ）](#) を参照してください。



- (注) [ツール (Tools)] > [Security Manager 管理 (Security Manager Administration)] > [展開 (Deployment)] ページの [新規または変更済み FlexConfig のみを展開する (Deploy only new or modified FlexConfigs)] 設定を有効にした場合、変更のあるアクティビティを開いているときに、FlexConfig を展開しようとする、Cisco Security Manager は、（他のアクティビティの変更ではなく）開いているアクティビティのみに固有の FlexConfig の変更を考慮します。一方、すべてのアクティビティが送信済みで、開いているアクティビティがない場合、Security Manager は、変更とともに送信された、最後に送信されたアクティビティに固有の FlexConfig の変更を考慮します。そのため、展開中にアクティビティを反映させるために FlexConfig の変更が必要な場合は、変更が単一のアクティビティで実行され、送信され、展開されていることを確認してください。

FlexConfig ポリシーを編集するときに、次のアクションを実行できます。

- **FlexConfig オブジェクトの追加** : FlexConfig オブジェクトをポリシーに追加するには、[追加 (Add)] アイコンボタンをクリックし、目的のオブジェクトを選択します。オブジェクトセレクト ダイアログボックスから新しいオブジェクトを作成することもできます。オブジェクトは、その定義方法に応じて、プリペンドリストまたはアペンドリストに追加されます。
- **FlexConfig オブジェクトの削除** : ポリシーにオブジェクトを含める必要なくなった場合は、そのオブジェクトを選択し、[削除 (Remove)] アイコンボタンをクリックします。こ

のアクションによって、オブジェクトはポリシーから削除されますが、Security Manager からは削除されません。オブジェクトの削除の詳細については、[オブジェクトの削除](#)を参照してください。

- **オブジェクトの順序の変更**：オブジェクトは、指定した順序で処理されます。オブジェクトが別のオブジェクトの処理に依存している場合は、オブジェクトの順序を正しく指定することが重要です。順序を変更するオブジェクトを選択し、オブジェクトが目的の位置に配置されるまで上矢印ボタンまたは下矢印ボタンをクリックします。

ルートマップを含む FlexConfig オブジェクト（たとえば、OSPF またはマルチキャスト ルートマップ）の順序を変更する場合は、ルートマップの前に対応するアクセス コントロール リスト（ACL）が定義されていることを確認します。これはデバイスの要件です。ルートマップの前に ACL を定義しない場合は、展開エラーが発生します。

- **ポリシーオブジェクトで使用されている変数に割り当てられた値の変更**：オブジェクトのデバイスレベルのオーバーライドを作成して、特定のデバイスについて変数に別の値を設定する場合は、オブジェクトを選択し、[値 (Values)] をクリックします。[Values Assignment] ダイアログボックスで、[Values] セルをクリックして値を変更します。詳細については、[\[Values Assignment\] ダイアログボックス \(46 ページ\)](#) を参照してください。
- **ポリシーオブジェクトに対して生成される CLI のプレビュー**：デバイスビューで、オブジェクトを選択し、[プレビュー (Preview)] をクリックして、ポリシーオブジェクトに対して生成される CLI を表示できます。このことは、生成される CLI コマンドがデバイスに実装する予定のコマンドであることを確認する場合に、特に役立ちます。



- (注) 展開中、Security Manager サーバで FlexConfig ポリシー オブジェクトがコンパイルされるときに、正しいシステム変数値と設定がコマンドの生成に使用されます。ただし、プレビュー機能では展開時の通常の方法ではこれらの値にアクセスできないため、一部の CLI コマンドが表示されない場合があります。さらに、プレビュー機能によってクライアントに CLI コマンドが生成されるため、FlexConfig ポリシーオブジェクトで使用される一部のマクロがサーバ設定ではなくクライアント設定に反映されます。

関連項目

- [FlexConfig オブジェクトの変数について \(6 ページ\)](#)
- [FlexConfig ポリシー オブジェクトの作成 \(35 ページ\)](#)
- [ポリシーの管理](#)
- [展開の管理](#)

[FlexConfig Policy] ページ

[FlexConfig Policy] ページを使用して、FlexConfig ポリシーを作成します。FlexConfig ポリシーには、FlexConfig ポリシー オブジェクトの順序リストが含まれます。これらのオブジェクトは、Security Manager の機能を拡張してデバイスを設定できるサブルーチンです。FlexConfig ポリシー オブジェクトの詳細については、[FlexConfig ポリシーとポリシー オブジェクトについて \(2 ページ\)](#) を参照してください。

ナビゲーションパス

- (デバイスビュー) ポリシーセクタから [FlexConfigs] を選択します。
- (ポリシービュー) ポリシータイプセクタから [FlexConfigs] を選択し、既存のポリシーを選択するか、または [ポリシーの作成 (Create a Policy)] ボタンをクリックして新しいポリシーを作成します。

関連項目

- [FlexConfig ポリシー オブジェクトの作成 \(35 ページ\)](#)

フィールドリファレンス

表 15: [FlexConfigs Policy] ページ

要素	説明
Prepended FlexConfigs	設定の先頭に追加される FlexConfig ポリシー オブジェクト。オブジェクトは示されている順序で処理されます。
Appended FlexConfigs	設定の末尾に追加される FlexConfig ポリシー オブジェクト。オブジェクトは示されている順序で処理されます。
[Values] ボタン	このボタンをクリックすると、 [Values Assignment] ダイアログボックス (46 ページ) を使用して、選択した FlexConfig ポリシー オブジェクトで使用されている変数に割り当てられた値を表示、変更、または検証できます。
[Preview] ボタン (デバイスビューだけ)	このボタンをクリックすると、選択した FlexConfig ポリシー オブジェクトに対して生成される CLI コマンドを表示できます。 ポリシービューでは、まず [値 (Values)] をクリックし、[値の割り当て (Values Assignment)] ダイアログボックスでデバイスを選択して [プレビュー (Preview)] をクリックすると、CLI をプレビューできます。

要素	説明
上下の矢印ボタン	選択したオブジェクトをリスト内で上下に移動するには、これらのボタンをクリックします。オブジェクトは表示された順序で処理されるため、処理が別のオブジェクトの処理に依存するオブジェクトは、そのオブジェクトが依存するオブジェクトのあとに配置することが重要です。
[追加 (Add)] ボタン	このボタンをクリックすると、FlexConfig ポリシー オブジェクトがポリシーに追加されます。オブジェクト自体に、プリペンドリストに追加されるか、またはアペンドリストに追加されるかが定義されています。新しい FlexConfig オブジェクトを作成するか、または既存のオブジェクトを選択できます。
[編集 (Edit)] ボタン	このボタンをクリックすると、選択した FlexConfig ポリシー オブジェクトを編集できます。変更は、編集したオブジェクトを使用するすべてのデバイスに反映されます。つまり、変更はデバイスのローカル ポリシー オブジェクトのオーバーライドではありません。 (注) Security Manager に付属している定義済みの FlexConfig ポリシー オブジェクトまたは編集権限がないオブジェクトを選択した場合は、オブジェクト定義の表示だけが許可されます。
[Remove] ボタン	このボタンをクリックすると、選択したオブジェクトがポリシーから削除されます。Security Manager からは削除されず、FlexConfig ポリシーから削除されるだけです。

[Values Assignment] ダイアログボックス

[Values Assignment] ダイアログボックスを使用して、FlexConfig ポリシー オブジェクトで使用されている変数を表示したり、オブジェクトを検証したり、オブジェクトから生成される CLI をプレビューしたりします。詳細については、[FlexConfig オブジェクトの変数について \(6 ページ\)](#) [\[FlexConfig Policy\] ページ \(45 ページ\)](#) を参照してください。

ナビゲーションパス

[\[Add FlexConfig\]/\[Edit FlexConfig\] ダイアログボックス \(36 ページ\)](#) でオブジェクトを選択し、[値 (Values)] をクリックします。

フィールドリファレンス

表 16: [Values Assignment] ダイアログボックス

要素	説明
[Assigned Devices] (ポリシー ビューだけ)	共有 FlexConfig ポリシーが割り当てられているデバイス。変数値を表示するデバイスを選択します。
名前	変数の名前。
値	変数に使用する値。値を変更するには、セルをダブルクリックします。この値を変更すると、Security Manager によって、ポリシーオブジェクトのデバイスレベルのオーバーライドが作成されます。値を上書きできないようにポリシー オブジェクトが設定されている場合は、値を編集できません。 変数のデフォルト値が設定されていない場合は、オプションの変数の場合を除き値を指定する必要があります。
デフォルト値 (Default Value)	ポリシー オブジェクトの変数に割り当てられている値。このセルをダブルクリックすると、変数の値を定義するポリシーオブジェクトの定義が表示されます。
オーバーライド	変数の値を上書きできるかどうか。値を編集できるのは、このカラムにチェックマークが付いている変数だけです。
Object Property	オブジェクトのプロパティ。詳細な説明については、 [Add FlexConfig]/[Edit FlexConfig] ダイアログボックス (36 ページ) を参照してください。
次元	変数のデータの構造。 <ul style="list-style-type: none"> • 0 : スカラ (単一の文字列) • 1 : 1 次元配列 (文字列のリスト) • 2 : 2 次元配列 (文字列のテーブル)
オプション	変数値を空にできるかどうか。
説明	変数の説明。
[Validate] ボタン	このボタンをクリックすると、Velocity テンプレート言語の構文を検証し、すべての必須変数に値が指定されていること、変数が SYS_ で始まらないこと、および参照先のポリシー オブジェクトが存在することを確認できます。

要素	説明
[Preview] ボタン	このボタンをクリックすると、選択した FlexConfig ポリシー オブジェクトに対して生成される CLI コマンドが表示されます。

[FlexConfig Preview] ダイアログボックス

[FlexConfig Preview] ダイアログボックスを使用して、FlexConfig ポリシーに定義されている選択オブジェクトの変数に基づいて生成される CLI コマンドを表示します。

ナビゲーションパス

FlexConfig ポリシーのプレビュー ダイアログボックスを開くには、次のいずれかを実行します。

- [\[Values Assignment\] ダイアログボックス \(46 ページ\)](#) で、[プレビュー (Preview)] をクリックします。ポリシービューでは、最初にデバイスを選択する必要があります (デバイスビュー)。デバイスを選択し、[FlexConfig] をクリックします ([\[FlexConfig Policy\] ページ \(45 ページ\)](#) を参照)。FlexConfig ポリシー内のオブジェクトを選択し、[プレビュー (Preview)] をクリックします。

FlexConfig のトラブルシューティング

問題 : Cisco Security Manager クライアントを使用して FlexConfig を追加すると、次のエラーメッセージが表示される場合があります。

```
Syntax Error: Failed to setup Velocity Engine to validate syntax.
```

この問題は、Microsoft Windows の管理者権限が原因です。Microsoft Windows Vista および Microsoft Windows 7 で FlexConfig 機能を使用する場合、Security Manager は管理者権限を要求します。

解決策 : この問題を解決するには、次のいずれかの方法で、管理者権限を使用して Security Manager クライアントを起動します。

- 管理者権限で Security Manager クライアントを起動するには、[Configuration Manager] ショートカットを右クリックし、[管理者として実行 (Run as administrator)] を選択します。
- Security Manager クライアントの管理者権限を永続的に有効にするには、[Configuration Manager] ショートカットを右クリックし、[プロパティ (Properties)] を選択します。[互換性 (Compatibility)] タブで、[管理者としてこのプログラムを実行する (Run this program as an administrator)] を選択し、[OK] を選択します。

問題 : FlexConfig を使用して ASA ファイアウォールに **reload in x noconfirm** と **reload cancel** の 2 つのコマンドを 1 つのジョブで展開すると、次のエラーメッセージが表示されます。

```
An error response from the device prevented successful completion of this
```

operation. The device provided the following description: reload cancel No
reload is scheduled

残念ながら、両方のコマンドがあまりにも速くプッシュされ、デバイスでリロードスケジュールがアクティブ化される前に **reload cancel** が送信されるため、展開は常に失敗します。

解決策：この問題を回避するには、手動で作成した2つの別個の展開でコマンドを送信する必要があります。

問題：FlexConfig がデバイスに割り当てられて展開されている場合、FlexConfig がデバイスから削除された後でも、完全な設定プレビューに FlexConfig が表示されることがあります。

解決策：回避する必要はありません。展開中はデルタ設定のみがデバイスにプッシュされるため、FlexConfig は展開に含まれません。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。